

学会にて研究成果を発表

【第15回 日本食品化学学会】

この経験から、いかなる仕事においても失敗には成功の力がかかっていると学びました。技術の神様 本田宗一郎氏は成功者の話を聞いたことで、自分も成功すると信じていない自分自身で考え、努力することが成功につながる。最後まで諦めなかった人間が成功しているのだ。著書で述べられており、まさにその通りだと感じました。始めから成功することはない様な失敗の積み重ねから仮説を立てて研究をすすめ、理論を完成させていくことで成功に結びついたのではないかと思います。諦めたらそこでゲームオーバーです。

学会発表を通じて

2008年の5月から竹抽出物の抗ウイルス効果と作用機序の共同研究が始まりました。竹抽出物にはアルキルが含まれているので、アルキルを含まない竹抽出物での抗ウイルス効果を研究するためにサンプルの調整を行いました。しかし、抗ウイルス効果の試験に適したサンプルの調整は容易ではなく、100種類を超えるサンプルを調整し、その効果試験を行いました。その結果、数々の失敗を経て得たヒントから、効果のある条件が絞り込まれ、その作用機序についても仮説が立てられるようになりました。そして立派に学会発表を行えることが出来ました。



学会発表まで

ifia JAPAN 2009 に出展しました



2009年5月20日(水)～22日(金)に東京ビッグサイトで開催されるifia JAPAN 2009(第14回 国際食品素材/添加物展・会議)に出展いたしました。今回のIFIA展示会は想像以上に当社ブースへのお客様の入りが多く、対応に追われる3日間でした。

新型インフルエンザの影響

新型インフルエンザの国内発生がきっかけとなり一気に衛生管理への危機意識が高まりました。展示会場でも出入口にはアルコール製剤が置かれ、マスクが配布されるという状況でした。そのせいか、例年に比べると全体の来場者は少ないようでした。しかしながら、当社ブースは「竹」「抗菌」「衛生管理」という文字を目にされてか、ブース前で足を止めるお客様が多かったです。当社製品の説明に熱心に耳を傾ける方が多く、営業にも熱が入りました。

衛生管理への意識向上

現在、飲食店・ホテル・食品関係のお客様が多い中、思いもよらないところからの引き合いもありました。大手自動車メーカー、証券会社、文具メーカー、石油精製会社等、全くの異業種からの問い合わせに「なぜ?」と思いました。率直に尋ねたところ、社員向けの衛生管理の為とのことでした。マスクの需要が高まる中、アルコール製剤への注目度も上がっているようでした。

衛生環境作り

世間での衛生管理への危機感が高まる中、この流れを一過性のもので終らせるのではなく、「しっかりした衛生環境作りの習慣付け」を社会に定着させたいと思います。

安心できる衛生環境作りの為には、まず 良い意味での危機感の意識付け 正しいアルコール製剤の使い方を覚えていただく 衛生管理の行動を繰り返すことで、しっかりと習慣付ける... と考えます。今回のことを良い機会と捉え、安全で安心できる環境作りを提案していきたいと思ひます。

BAMBOO HYGIENE master

6月号

細菌及びウイルスによる食中毒発生状況

(2009年4月1日～2009年4月30日)

発生件数の多い順

順位	原因物質	発生件数	対昨年同時期
1	カンピロバクター	5件	発生34件 29件 (85.3%減)
2	ノロウイルス	4件	発生18件 14件 (77.8%減)
3	ウェルシュ菌	1件	発生3件 2件 (66.7%減)

患者数の多い順

順位	原因物質	患者数	対昨年同時期
1	ノロウイルス	76人	発生866人 790人 (91.3%減)
2	ウェルシュ菌	55人	発生110人 55人 (50%減)
3	カンピロバクター	22人	発生179人 157人 (87.7%減)

厚生労働省HPより集計

【インフルエンザウイルス】

5月下旬に流行したインフルエンザ

日本中を震撼させた新型インフルエンザもそろそろ収束してきました。この間、報道や情報番組を通じて多くのウイルス専門用語が使われましたが、その中でも最も気になる言葉は「強毒型」と「弱毒型」ではないでしょうか。

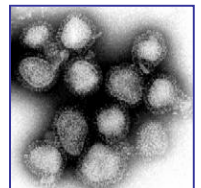
強毒型と弱毒型の違い

強毒型と弱毒型の違いは、インフルエンザが感染できる場所が違う、ということです。通常弱毒型インフルエンザは呼吸器系(気管、ノド、鼻など)にしか感染できませんが、強毒型はいろんな臓器に感染することが出来、全身に広がります。

～型と～性の違い

ここでややこしいのが、「強毒性」と「弱毒性」です。「～型」と「～性」は違うのです。強毒性と弱毒性の違いは、単純に症状がひどいか、軽いかです。ですから、「弱毒型」でノドにしか感染できなくても、症状がひどく、死に至るような場合は「強毒性」なのです。なんてややこしい...

報道でも、このあたりの言葉は混同されています。頭の中で「翻訳」が必要かもしれません。



出展: wikipedia

TAKE株式会社タケクス・ラボ

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1丁目13番48号

インターネット江坂ビル3F

TEL:06-6821-2554 FAX:06-6821-4841

http://www.takex-labo.com